

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
TEL(代表)0155-22-2121
編集局 0155-22-2121
広告局 0155-23-2323
広販売局 0155-24-2222
編事務局 0155-22-7555
総務局 0155-24-2299
広尾支局 01558-2-4111
池田支局 01557-2-2367
本別支局 01562-2-2618
新得支局 01566-4-5524
札幌支社 011-261-2161
東京支社 03-3544-1365

成層圏プラットフォーム

【東京、大樹】文部科学省航空宇宙技術研究所は三十日、成層圏プラットフォームの飛行試験を大樹町多目的航空公園と茨城県日立市北河原地区の二カ所に分けて実施することを内定した。大樹町では上空四〇〇〇メートル程度の成層圏での定点滞空飛行試験を行う。四月三日に開く成層圏プラットフォーム開発協議会で正式決定する。(目黒精一、小林祐己)

60メートル級機体を使用 上空4キロで定点滞空

文部科学省
2003年度から

大樹町での飛行試験は、機体を使う。二〇〇三年度から始め、翌年度は、プロペラ付きの六十一



にかけて二、三十回繰り返す予定。まず、百メートル上空で滞空する試験を行い、徐々に高度を上げて最終目標の四キロ程度上空での定点滞空の技術を確立する。試験地の多目的公園では、今秋から気象観測用レーダーの設置に取りかかる。続いて機体格納庫の工事が予定されている。日立市で行う成層圏試験は四十メートル級の機体を使い、二〇〇二年に予備試験を経て、三年度中に約十五キロ上空の成層圏まで到達させ、機体の膜の強度などを検証する。文部科学省によると、成層圏滞空飛行試験には大樹町のほか日立市の二

いる。気流や天候などの気象観測は二〇〇二年からスタートし、試験終了の〇〇四年までデータを蓄積する。一方、日立市で行う成層圏試験は四十メートル級の機体を使い、二〇〇二年に予備試験を経て、三年度中に約十五キロ上空の成層圏まで到達させ、機体の膜の強度などを検証する。文部科学省によると、成層圏滞空飛行試験には大樹町のほか日立市の二地区、定点滞空飛行試験には大樹町と同県ひたちなか市が誘致に名乗りを上げていた。試験実施機関の航技研が中心になって地形や気象データなどを比較して試験地を選定した。大樹については①飛行船の飛行実績がない②気象データが不足③理由に成層圏試験地には漏れたが、土地が広く周辺に飛行を妨げる施設がないことが有利に働き、定点試験地に内定した。

大樹で飛行船試験

「条件評価された」

伏見町長 基地開設へ道開く

【大樹】大樹町では伏見町長が「内定は地元の選定でうれしい」と誘元選出代議士から連絡を受けた。実験場としての先に名乗りを上げた茨城

制上の制約の少なさなどの利点で対抗。伏見町長らが国への要望を重ね、PRに努めてきた。町では内定獲得を「実際に実験に携わる人たちへの評価が高かったことも大きい」と見る。各種航空宇宙実験に訪れた研究者たちから自由に実験が出来る同公園の評判が口コミで広がり、現場レベルでの高い評価を得てきたことは大きな後押しになった。この内定で将来国内に十数カ所設けられる基地開設への道も開けたと言え、関係者は研究者の来町や関連施設建設など長期的な地域への経済波及効果を期待。次の百五十メートル級の飛行船での技術実証試験誘致にも自信を深めている。町が航空宇宙産業基地誘致に取り組んで十六年

目。町長は「二十一年に大きなプロジェクトが来たことは、故郷口武雄元町長からの苦勞が報われた思いで感激しています。地域、町民の温かい支援、道などのバックアップがあったからこそ」と話している。